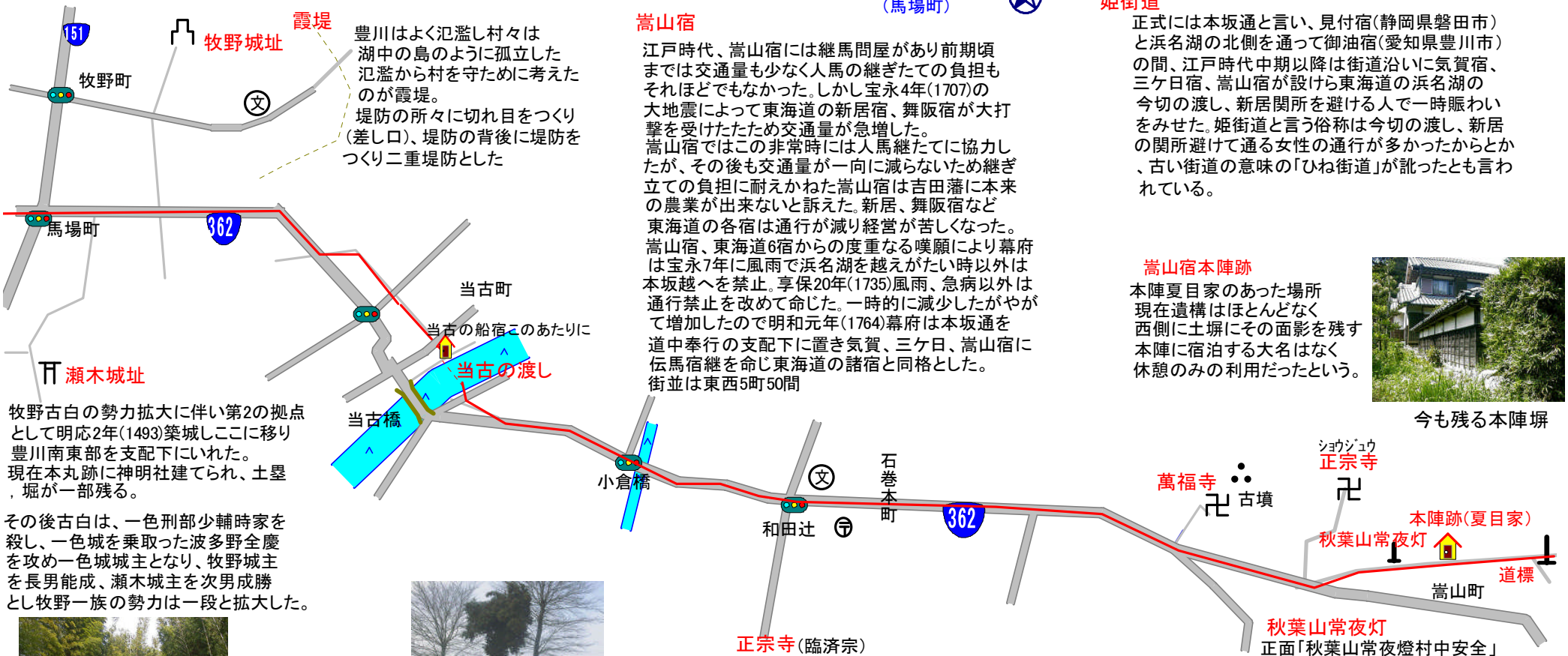
# 姫街道：１３嵩山（すせ）ー豊川（馬場町）




## 嵩山宿

江戸時代、嵩山宿には継馬問屋があり前期頃までは交通量も少なく人馬の継ぎたての負担もそれほどでもなかった。しかし宝永4年(1707)の大地震によって東海道の新居宿、舞阪宿が大打撃を受けたため交通量が急増した。
嵩山宿ではこの非常時には人馬継たてに協力したが、その後も交通量が一向に減らないため継ぎ立ての負担に耐えかねた嵩山宿は吉田藩に本来の農業が出来ないと訴えた。新居、舞阪宿など東海道の各宿は通行が減り経営が苦しくなった。
嵩山宿、東海道6宿からの度重なる嘆願により幕府は宝永7年に風雨で浜名湖を越えがたい時以外は本坂越へを禁止。享保20年(1735)風雨、急病以外は通行禁止を改めて命じた。一時的に減少したがやがて増加したので明和元年(1764)幕府は本坂通を道中奉行の支配下に置き気賀、三ケ日、嵩山宿に伝馬宿継を命じ東海道の諸宿と同格とした。
街並は東西5町50間

## 姫街道

正式には本坂通と言い、見付宿(静岡県磐田市)と浜名湖の北側を通って御油宿(愛知県豊川市)の間、江戸時代中期以降は街道沿いに気賀宿、三ケ日宿、嵩山宿が設けら東海道の浜名湖の今切の渡し、新居関所を避ける人で一時賑わいをみせた。姫街道と言う俗称は今切の渡し、新居の関所避けて通る女性の通行が多かったからとか、古い街道の意味の「ひね街道」が訛ったとも言われている。

## 嵩山宿本陣跡

本陣夏目家のあった場所
現在遺構はほとんどなく
西側に土塀にその面影を残す
本陣に宿泊する大名はなく
休憩のみの利用だったという。



今も残る本陣塀

## 瀬木城址

牧野古白の勢力拡大に伴い第2の拠点として明応2年(1493)築城しここに移り豊川南東部を支配下にいれた。
現在本丸跡に神明社建てられ、土塁，堀が一部残る。

その後古白は、一色刑部少輔時家を殺し、一色城を乗取った波多野全慶を攻め一色城城主となり、牧野城主を長男能成、瀬木城主を次男成勝とし牧野一族の勢力は一段と拡大した。

霞堤

## 牧野城址

牧野氏は阿波国の豪族田口氏の後裔と言われている。15世紀の初め田口成富がここ牧野村に住み牧野を名乗り一色氏の被官となった。成富の子古白の時勢力を伸ばし一辺80m程の”かきあげ城”を築いた
今は石碑と古井戸が残る

## 正宗寺（臨済宗）

永仁年間（1293-98）に渡来した宋僧日顔が中国の嵩山（ｽｳｻﾞﾝ）の地形に似ている所から嵩山（ｽｾ）と名付け、山上に寺を建立したのがはじまりと伝えられている。寺号も日顔が宋で学んだ天目山獅子正宗禅寺からとったという。室町時代に一時衰退、戦国時代土豪西郷氏の庇護を受け、江戸時代には幕府から36石の朱印を受けていた。

## 萬福寺（臨済宗）

承和3年(1347)大模範和尚の創建
本堂は明治2年再興、本堂正面の額「萬福寺」は老中松平定信の筆と言われている。
寺の裏北東に萬福寺古墳がある
直径15m、高さ3m横穴式石室をもつ円墳、6世紀中期頃

## 秋葉山常夜灯

正面「秋葉山常夜燈村中安全」
右側面「文政十丁亥九月吉日」